

条幅部自由参考

1月25日正午必着

明石春浦先生書

初空にならんとすらん 茶のけぶり (小林一茶)

明石幸子書

（松本奎堂） 春の去るのを惜んで酒食をもうけて宴をはる。

はるのかえるといふをたずねんとほつし
欲レ迹二春歸處一
りゅうすいとちらかと
流水與落花一
がと
花一
はるにとえどもはるほかたらす
問レ春春不レ語
ゆうせんとしひとそむいてくる
悠然背人去
ゆうぜんとしひとそむいてくる
（松本奎堂） 春の去るのを惜んで酒食をもうけて宴をはる。

1月25日正午必着

春江兩岸百花深 (王錫)
夢回春草池塘外 (楊公遠)
詩在梅花烟雨間 (殷遙)
山行 (殷遙)
寂歷青山曉
野花成子落
暗草薰苔徑
俗人猶語此
新しき年のはじに思ふどちい群れて居ればうれしくもあるか
(道祖王)

春江兩岸百花深 (王錫)
夢は春草池塘の外に回り
詩は梅花烟雨の間に在り
山行 (殷遙)
寂歷たる青山の曉
野花を成して落ち
暗草苔怪を薰じ
俗人すら猶お此を語る
新しき年のはじに思ふどちい群れて居ればうれしくもあるか
(道祖王)

春江兩岸百花深 (王錫)
夢は春草池塘の外に回り
詩は梅花烟雨の間に在り
山行 (殷遙)
寂歷たる青山の曉
野花を成して落ち
暗草苔怪を薰じ
俗人すら猶お此を語る
新しき年のはじに思ふどちい群れて居ればうれしくもあるか
(道祖王)

春江兩岸百花深 (王錫)
夢は春草池塘の外に回り
詩は梅花烟雨の間に在り
山行 (殷遙)
寂歷たる青山の曉
野花を成して落ち
暗草苔怪を薰じ
俗人すら猶お此を語る
新しき年のはじに思ふどちい群れて居ればうれしくもあるか
(道祖王)

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。



萬物生光輝 (古樂府) 春になって万物が生き生きとして来た。

半紙部規定課題A

1月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題 B

1月25日正午必着

草書

しづかなわびすまい、隣り合う家となく草むす径ごみちは、荒れるにまかせた庭へとみちびかれる鳥は池の中の木立にやどり 僧がひとり、月の光の下に門をたたく（ひそやかなその音）橋を過ぎてなおも存する野のけはい 山中の雲のわく石を移し来てすえてあるのが目に入るしばらく他處に行つていましたが、またここにもどつて来ました 風雅のちぎり、決して言に違うたが

六月
丁巳
日

下傳僧
門惠
月

行草書

しづかなわびすまい、隣り合う家とてなく、草むす径は、荒れるにまかせた庭へとみちびかれる
鳥は池の中の木立にやどり、僧がひとり、月の光の下に門をたたく（ひそやかなその音）
橋を過ぎてなおも存する野のけはい、山中の雲のわく石を移し来てすえてあるのが目に入る
しばらく他処に行つていましたが、またここにもどつて来ました、風雅のちぎり、決して言に違うことはありません

僧敲月下門

僧敲月下門

僧敲月下門

下門敲月

隸書

明石春浦先生書

題二李疑幽居

賈
島

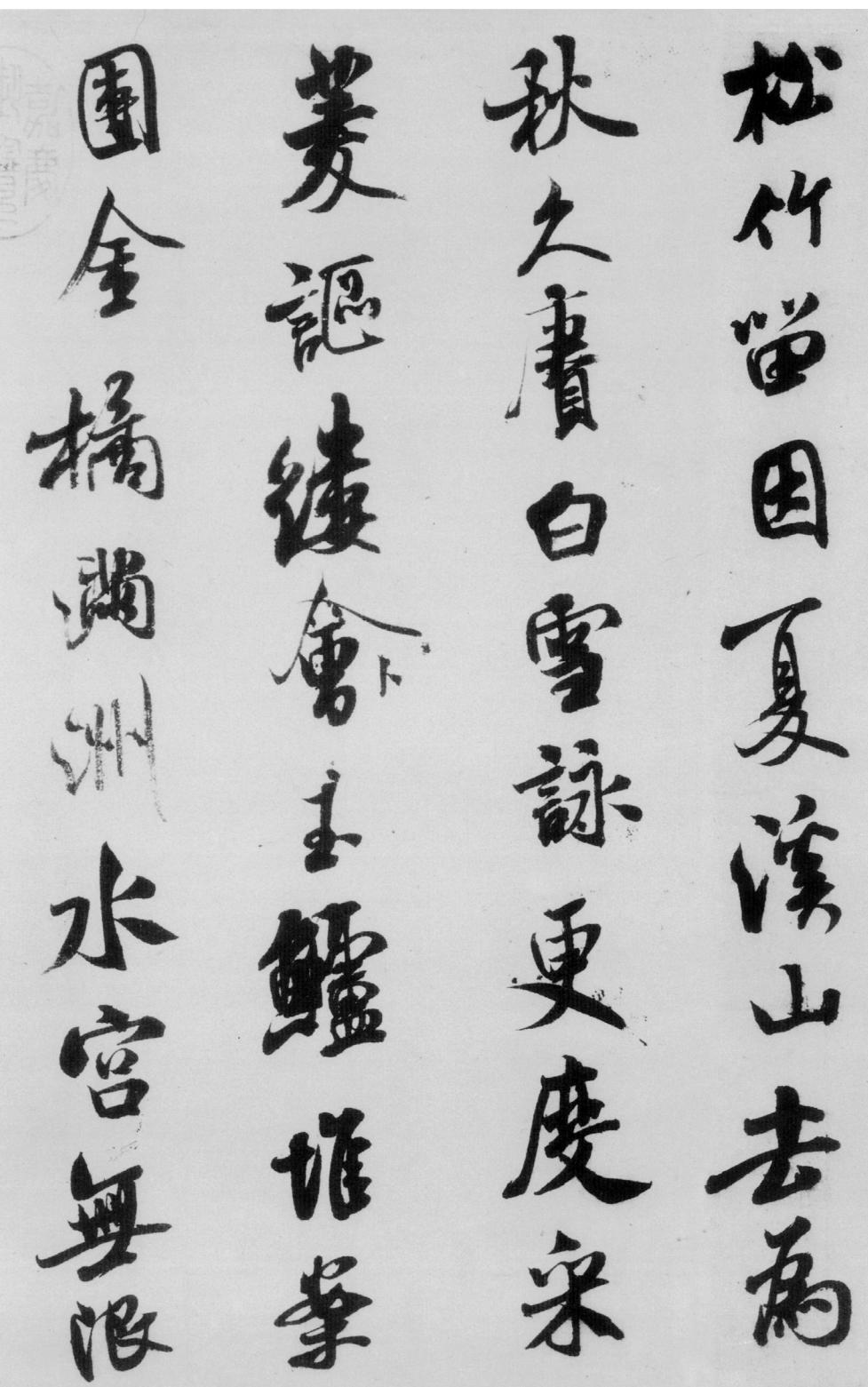
閑居少鄰竝
草徑入荒園
鳥宿池中樹
僧敲月下門
移石動雲根
過橋分野色
暫去還來此
幽期不負言

賈
島

草笛
荒原に入る
鳥は宿る
池中の樹
僧は敲く
月下の門
橋を過ぎて
野色を分ち
石を移して
雲根を動かす
暫らく去りて
還た此に來る
言に負かず

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

条幅部半紙部臨書課題





宋
米芾・苕溪詩卷

米芾（一二〇五—一一〇七）、原名は黻、四十一歳以後に芾の字を書いた。字は元章、鹿門居士、襄陽漫士と号した。書については、蘇軾、黃庭堅とともに宋の三大家と呼ばれている。この三人は十五年の年齢差はあったものの、互いに親友として一生交際を続けた。三人の書はほとんど趣を一にしている。それぞれに新しく独自の書法を見いだそうと古人の書法を研究し、一生懸命に努力を試みたが、時代の要求に応えて、自由な個性、人間的な精神を表現するにふさわしい書風を創始するという共通の目標によつて、このようになつたと推測されている。

米芾は、天資高邁で、ひととなり狂放、世の常識には与しない性格であったといわれる。書を書くだけでなく、書画を集め、鑑賞し審定し、書画についての多くの記録を残した。それ故書画の研究という面での開拓者であったともいえる。画においても優れた才を發揮し、米法山水の創始者でもあつた。

この苕溪詩巻は米芾が、當時湖州の知州をしていた林希の招きでその任地を訪れた際に友人達に呈しした詩、五言律詩六首を書き連ねている。その書は一点一画、起筆の入筆から收筆まで油断がなくどの瞬間にも油斷がない。この用意周到な技法こそが最大の魅力である。この遊中に書いた蜀素帖とともに壮年期における代表作である。

現在北京の故宮博物院に蔵されている。

(春龍)

1月25日正午必着

教 育 部 毛 筆



ふり
振

そで
袖

中学一年

雨宮春聲先生書



きつ
吉

じょう
祥

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸 春龍先生書

着

物

小学五年



藤井 良泰先生書

配

達

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

1月25日正午必着



太

平

小学三年

藤田幸春先生書



初

市

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ゆ

き

小学一年・幼年

明石幸子書



天

光

小学二年

森戸春濤書

1月25日正午必着

教育部 硬筆

ペン字部

今夜は寒いので毛布
を二まいかけよう

冷えた体を熱いおふ
ろに入つて温めた

日記は毎日書きつづ
けることが大切です

寒さが身をさわほだ
季節となりまーた

谷風に解くる氷のひまごとに打出づる波や春の初花(源
當純)

小学五年

小学六年

中 学

一般(級位)

一般(段位)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

明石幸子書

だいすきでえすびが
まいとさくろ
くわいとさくま
くわいとさくま
くわいとさくま

幼年

かうら
おもた
あら
おもた
あら

小学一年

うじ
おん
うす
うじ
うじ

小学二年

じん
じん
じん
じん
じん

小学三年

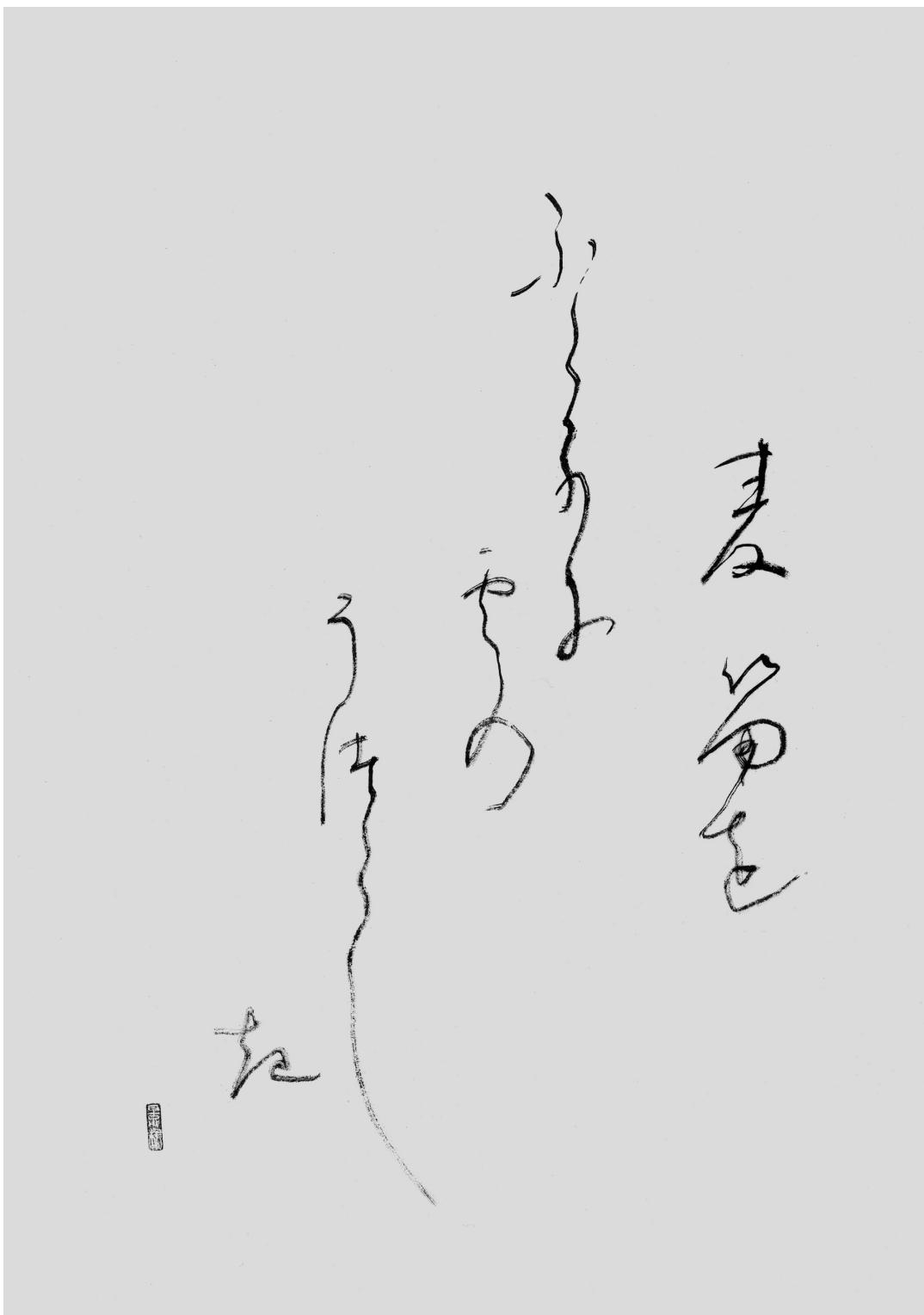
じん
じん
じん
じん
じん

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

1月25日正午必着



麦笛を
ふく子に雲の
うつくしき
徒起

(原石鼎)
はらせきてい

若本景楓先生書